

寅さん歩 その 26

東京の主要道路の起点～終点

大久保通り－1



平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」、「清洲橋通り」、「井ノ頭通り」、「葛西橋通り」、「中野通り」、「平和橋通り」と歩いてきました。

今回は「大久保通り」を歩きます。大久保通りは新宿区下宮比町の飯田橋交差点を起点に、杉並区高円寺南の環七通りの大久保入口交差点に至る延長約 9 kmの道です。写真右上は大久保通りの道路名標識（都道 433 号線）ですが、起点から神楽坂上交差点までは都道 25 号線です。

掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[飯田橋交差点] 新宿区下宮北町 最寄駅 JR総武線 飯田橋駅

目白通り（都道 8 号線）と外堀通り（都道 405 号線）が交差する飯田橋交差点（写真下右）が大久保通りの起点です。ここから神楽坂上までは都道 25 号線です。飯田橋駅から来て飯田橋交差点を左へ行くと四谷方面、右へ行くと水道橋方面、直進すると目白方面です。大久保通りは左上へ進みます。



写真下左は歩道橋の上から、写真下右は歩道橋を下りてから大久保通りの起点を撮影しました。



右側に「JCHO 東京新宿メディカルセンター」と表示の建物(写真下左)がありました。正式名称は「独立行政法人 地域医療機能推進 東京新宿メディカルセンター」で前身は東京厚生年金病院、2014年(平成26年)独立行政法人が直接運営の病院に移行しています。

[筑土八幡町交差点・筑土八幡神社]

新宿区筑土八幡町

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 飯田橋駅

写真下左は筑土八幡町交差点です。筑土八幡町交差点の右側には「筑土八幡神社」（写真下右）があります。創建は嵯岐天皇の時代（809～823年）で付近住む信仰心の厚い老人の夢に現れた八幡様のお告げで祀られたのが起源といわれています。



大久保通りの下は都営地下鉄大江戸線が通っていますので、これからから大江戸線めぐりです。

[神楽坂上交差点] 新宿区神楽坂五丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 牛込神楽坂駅



写真左は神楽坂上交差点です。左は神楽坂通りで善国寺を経て坂を下ると外堀通り（都道405号線）に交差します。右へ行くと早稲田通り（都道25号線）に合流します。

途中の地名に箆笥町の表示がありました。家具の箆笥を作っていたかと思いましたが、江戸時代は武器のことを箆笥と言ひ、この地には幕府の箆笥奉行がいたのが由来とのこと。牛込の地名も「込」とは多く集まることを意味し、昔は牛が多く放たれていたことに由来とのこと。また牛込区があり、四谷区・淀橋区と合併して現在の新宿区になっています。沿道にはお寺が多くみられるようになりました。

[市谷柳町交差点] 新宿区市谷柳町

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 牛込柳町駅



市谷柳町交差点（写真左）で外苑東通り（都道 319 号線）と交差します。

左へ行くと信濃町方面、右へ行くと早稲田鶴巻町方面です。大久保通りは直進します。

[経王寺 大黒天] 新宿区原町一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 牛込柳町駅

左側に賑やかな幟が並ぶ「経王寺」です。大黒天像の説明板があり「新宿山ノ手七福神のひとつで、日法上人の作、慶長 3 年(1598)に甲斐国身延山より移された」と伝えられる。高さ 12 センチの木造の立像で、大黒頭巾をかぶり小槌と大袋を持ち、台座に乗る通規の様式だが、江戸時代のものと異なり、微笑面ではなく厳しい表情をしている。室町時代の作と考えられ、度重なる火災「にも焼け残ったことから「火伏せ大黒」として、また「新宿山ノ手七福神」の大黒天として崇敬されている」と記載。



写真上は経王寺入口、写真右は大黒天が鎮座されているお堂です。

[常楽寺 一刀流ゆかりの寺] 新宿区原町一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 牛込柳町駅

左側に洒落た門と釣り鐘がある「常楽寺」(写真下左)があります。左の建物は牛込ハイツ(マンション)でその1階が「常楽寺」(写真下右)になっています。顕本法華宗のお寺です。



江戸時代の剣豪「一刀流」ゆかりの寺との説明板がありました。説明板には「伊藤一刀斎景久によって創始された一刀流は現代剣道のルーツいいわれ、多くの流派を派生させています。一刀流正統を継いだ小野派一刀流は徳川三代将軍家光の剣術師範、小野一刀流から分流の中西派一刀流は浅利又七郎、山岡鉄舟、千葉周作の剣豪を生み出した」と記載。

[瑞光寺] 新宿区原町一丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 牛込柳町駅



牛込柳町駅出口を挟んで「瑞光寺」(写真上左)がありました。日蓮宗のお寺ですが、山門にしめ縄がありました(写真上右)。

[宝禄稻荷神社] 新宿区原町三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅

右側に鳥居(写真下左)があり、中に入ると「宝禄稻荷神社」(写真下右)で昔話が掲示されていました。長い文書なので要約すると「百姓の男がおっかあや家族に腹いっぱい飯を食べさせようと富くじにつぎ込んだが、すってんてんになり帰りに、この地にあった祠に外れくじを置いて祈ったら、以降はくじ運が良くなり、一家は幸せになった。百姓はお礼に立派な社を建てました。この社は金銀融通や一陽来復で有名な穴八幡宮の末社になり、多くの人々が運が開けるように外れくじを置いてお参りに来たそうだ」と記載。



[若松町交差点] 新宿区若松町

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅

若松町交差点(写真右)で二手に分かれますが、大久保通りは右を直進します。左へ行くと抜け弁天方面です。



[国立国際医療研究センター・総務省統計局]

新宿区戸山一丁目新宿区・新宿区新宿七丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 若松河田駅

右側に「国立国際医療研究センター」(写真下左)があります。国立東京病院が国立病院医療センターになり、高度専門医療に関する研究を行う独立法人 国立国際医療研究センターになりました。その先左側は総務省統計局(写真下右)があります。寅次郎、建物内にある「統計資料館」を見学したことがあります。寅さん歩 328 東京の博物館めぐりー15 新宿区ー3 をご覧ください。



今回はここまでとします。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ

「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、バーチャルウォーク「東海

道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク

「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年(令和3年)9月から歩きました。

寅さん歩 379 で令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。

連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。

皆様の旅の進捗のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日、お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年9月30日原宿（現在の静岡県沼津市）（江戸日本橋から124km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。

沼津の宿から富士山を右に、千本松原を左にして進むと原の宿に至ります。



写真左は「原 朝之富士」です。鋭角的な山容の愛鷹山の向こうに富士山が描かれています。富士山の頂上は絵の枠から飛び出しています。これによって富士山の高さを強調していて、北斎の「富嶽三十六景」を意識した構図です。



写真左は現在の田子の浦です。街道脇を走る東海道線の東田子の駅を過ぎる、松林の先に田子の浦が見えてきます。この辺りから北へ見上げる富士は四季を通じて美しいです。

名物は江戸後期創業の高嶋酒造の山岡鉄舟命名の「白隠 政宗」とのことです。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで

印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝